

見学ツアーを終えて 厚真町南部の今、昔を知る

さる5月14日(日)に初企画の「厚真町南部の今、昔を知るツアー」を行いました。参加者は町民11名とやや少ない人数となりましたが、知ってはいるけど、訪れたことがない場所ばかりで、ふるさと厚真町についてたくさんの発見を持ち帰ることができました。

【北海道電力苫東厚真発電所】

特別にご協力をいただき日曜日に見学ができました。職員2名のご案内でタービンやビルの18階に相当する建屋屋上などを見学し、炭の輸入から発電、送電までの仕組み、環境へ配慮するエコシステムを学びました。参加者たちは北海道の電力の3分の1を賄う発電所の規模とその重要性を、直接体感することができました。



【新日本海フェリーターミナル】

当日は冷たい風が吹くあいにくの天気でしたので、特段のご配慮のもと昼食もターミナル待合室を利用させていただきました。運行スケジュールの都合上、国内最大のフェリーは接岸していませんでしたが、説明により年間14万人、車両22万1千台が行き交う海の玄関口としてのフェリー輸送の重要性を知ることができました。



【豊丘石油湧出地点】

湧出地点は野安部川上流域、町道豊丘宇隆線に続く林道沿いであり、草木が芽吹き始めた山奥には異質な油の臭いがしました。林の中では真っ黒な油たまりと、ガスや原油が噴き出す“ゴボゴボ”という音に気づきます。北海道内でも数少ないこの地質現象に参加者の皆さんは驚いていました。



このほか浜厚真八幡神社と青木与八翁の記念碑、豊丘天満宮と水田発祥の地の石碑、軽舞遺跡調査整理事務所での埋蔵文化財と開拓資料などを見学しました。今回、南北に長い厚真町の一部ではありますが、改めて私たちのふるさと厚真町の歴史を体感することができました。

9月には第2弾として、朝日や富里、高丘地区、厚真町幌内とむかわ町穂別を結ぶ北進平取線をめぐる北部ツアーを開催する予定です。どうぞご期待ください。

厚真町の遺跡出土品が日本列島巡回展へ！

文化庁では平成7年から毎年、遺跡の発掘調査で見つかった貴重な発見、出土品を全国の主要博物館で展示する「発掘された日本列島展」を行っています。

今年の列島展では、約700年前のアイヌ民族のお墓から出土した首飾りや銀装飾の矢筒が展示されることとなりました。こちらは平成20年に発掘調査した幌内地区のオニキシベ2遺跡で出土したものです。これらは、広く全国へアイヌ民族の歴史や伝統文化を伝える貴重な出土品として、丸1年をかけて6月3日からの東京江戸博物館をスタートに、8月には青森県八戸市、続いて三重県津市、愛知県安城市、長崎県壱岐市の博物館で開催されます。

厚真町内では、保存処理を終えた平成21年と27年に特別公開展示、一般の方々にも随時公開していたところです。地道な公開展示活用が少しずつ全国からの注目につながり、今回の文化庁主催の巡回展で厚真町の遺跡もますます注目を集めることとなります。



右写真：出品される首飾りのガラス玉や古銭など(上)と銀装飾の「角九曜文」の飾り矢筒(下)